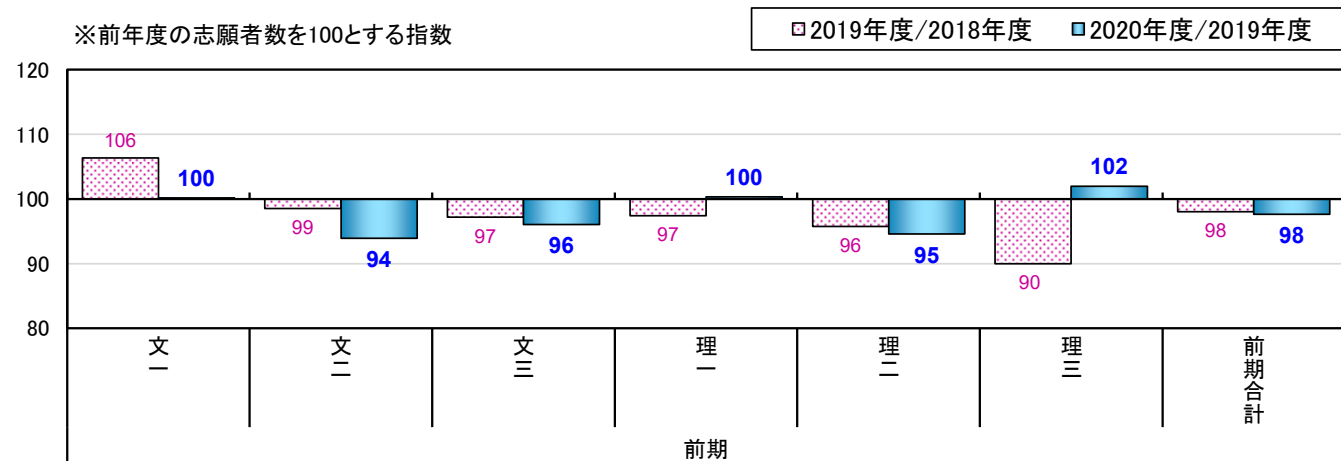


2020年度入試状況分析【国公立大】

東京大：大学全体では微減で2年連続減少、合格者女子占有率アップ

前期：-224人



COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、224人(98)の微減で2年連続減少。文理別では、文科類が129人(97)のやや減少、理科類が95人(98)の微減で、文科類は6年ぶりの減少、理科類は2年連続減少。増加および減少した科類はそれぞれ3科類ずつだった。

<前期日程>

- 文科一類(100)は、微増だが4年連続増加。
- 文科二類(94)は、系統への人気ダウンし、やや減少で2年連続減少。
- 文科三類(96)は、やや減少で4年連続減少。センター試験自己採点集計「データネット」における第1段階選抜通過予想ラインが文科類の中で最も高かったことから敬遠された。
- 理科一類(100)は、微増だが2年ぶりに増加。
- 理科二類(95)は、系統への人気低いこともあり、やや減少で2年連続減少。
- 理科三類(102)は、微増だが4年ぶりに増加。反動とセンター試験自己採点集計「データネット」における第1段階選抜通過予想ラインが低かったことが影響。
- 第1段階選抜合格率 ※《 》内は合格者最低点
 文科一類…85.5%《621点》、文科二類…95.4%《612点》、文科三類…98.2%《575点》、文科類全体…92.9%
 理科一類…94.7%《681点》、理科二類…94.7%《626点》、理科三類…82.3%《611点》、理科類全体…93.7%
 - 文理別の合格率は、文科類全体は前年度よりも2.8ポイントアップ、理科類全体も1.4ポイントアップしたが、2年連続で理科類の方が高い合格率となった。
 - 第1段階選抜の合格者最低点は、最も高い理科一類でも得点率75.7%と東京大志望者にとっては低い得点に留まった。
- 第2次学力試験(前期日程)合格者最低点(※東京大発表数値を小数点第1位で丸めた数値)
 文科一類…343.9点、文科二類…337.6点、文科三類…338.9点
 理科一類…320.7点、理科二類…313.0点、理科三類…385.6点
 - 前年度最低点を上回ったのは理科三類のみ、文科三類の最低点が文科二類の最低点を上回ったのは2013年度以来。
- 合格者の属性
 - 全体の現役占有率は、67.2%(前年度比+0.6ポイント)だった。科類別の現役占有率は、文科三類(前年度比-0.3ポイント)、理科三類(前年度比-8.2ポイント)がダウン。
 - 出身校所在地別の占有率は、「東京+関東」が56.9%(前年度比-2.3ポイント)で前年度よりダウン、一方で近畿が13.7%(前年度対比+1.0ポイント)で前年度よりアップ。
 - 女子占有率は、18.5%(前年度比+1.6ポイント)で前年度よりアップ。推薦入試、外国学校卒業学生特別選抜、2020年9月入学生(P E A K)を加えると女子占有率が20%を超える可能性がある。

<推薦入試> ※〔 〕内は前年度数値

- 募集人員100人程度に対して、志願者数は173人〔185人〕、合格者数は73人〔66人〕。
- 志願者数は173人と過去5回で2016年度、2017年度と並んで最も少なかったが、合格者数は2016年度に次ぐ2番目の多さだった。なお、2016年度は推薦入試導入初年度で既卒生合格者が多かったという特別の事情があった。
- 学部別合格者数：法…8人〔10人〕、経済…3人〔1人〕、文…5人〔3人〕、教育…7人〔8人〕、教養…5人〔4人〕
 工…23人〔22人〕、理…12人〔9人〕、農…3人〔4人〕、薬…3人〔1人〕、医(医)…3人〔4人〕
 医(健康総合科学)…1人〔0人〕
- 教育、教養、理、医(医)の4つの募集単位が募集人員を充足する合格者を発表した。
- 科類別合格者数：文科一類…8人〔11人〕、文科二類…4人〔1人〕、文科三類…15人〔14人〕
 理科一類…32人〔29人〕、理科二類…11人〔7人〕、理科三類…3人〔4人〕